



学校だより

深谷

令和8年4月30日

5月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

本には、多くの宝が眠っている

校長 杉田 仁

新緑がまぶしい季節となりました。校庭の木々は若葉を広げ、子ども達も新しい学年での生活に少しずつ慣れ、毎日をいきいきと過ごしています。5月は、心も体も大きく伸びる時期です。この時期に、子ども達の成長を支える「読書」について、あらためて考えてみたいと思います。

本を開くと、そこには多くの世界が広がっています。遠い国の出来事、昔の人々の暮らし、そしてまだ見ぬ未来の姿。子ども達は一冊の本を通して、自分の経験を超えたさまざまな世界に出会い、想像を広げ、心を動かしながら成長していきます。

ウォルト・ディズニー氏は、次のような言葉を残しています。

「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして、何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ。」

海賊の宝といえば、一度手に入れれば終わりかもしれません。しかし本の中の宝は、読むたびに新しい発見があり、何度でも味わうことができます。同じ本でも、読む人や読む時期によって感じ方が変わることもあります。それこそが、本のもつ大きな魅力です。物語の中で主人公の気持ちになって喜んだり、悩んだりする経験は、他者の気持ちを想像する力や思いやりの心を育てます。また、知識の本との出会いは、「なぜだろう」「もっと知りたい」という探究心を引き出し、学びへの意欲へとつながります。読書は、学力の基盤となる力を育てるとともに、心を豊かにする営みでもあります。言葉を知り、考えを深め、自分の思いを表現する力は、すべての学びの土台となります。そして何より、「考えることは楽しい」と感じる経験が、子ども達の未来を支える大きな力になります。

本校では、朝の読書の時間や学校図書館の活用、ふかふか隊読み聞かせボランティアによる読み聞かせなどを通して、子ども達が本に親しむ環境づくりを大切にしています。さらに、今年度は毎週火曜日を「ヨミフカようび」として、全クラスの宿題を読書としました。静かに本に向き合う時間は、心を落ち着かせ、一日の学習への集中力を高める効果もあります。読書を習慣としている子どもほど、物事に粘り強く取り組む姿が見られます。

ご家庭におかれましても、ぜひ読書の時間を大切にしていだければと思います。長い時間ではなくても構いません。「どんなお話だったの?」「どこが心に残った?」といった一言の声かけが、お子さんにとって読書の楽しさを深める大きなきっかけとなります。子ども達一人一人が、自分にとっての「宝の一冊」と出会うことは、これからの人生を豊かにする大切な財産となります。

本の中に眠っている宝物は、一度読んですぐに見つかるとは限りません。しかし、読み続けることで、その宝は子ども達の心の中に確かに積み重なり、将来、自分で考え、判断し、行動する力となって現れます。学校と家庭そして、地域が力を合わせ、子ども達が本という宝を見つけ続けられるよう支えていきたいと考えています。

5月も引き続き、本校の教育活動へのご支援とご協力をお願いいたします。